

修士42年入学	指導担当講座	研究テーマ
宣 寿 山	地誌学	人文地誌の研究
修士43年入学		
松 本 園 子	人文地理学	ハウスタイプにみられる都市化
小 林 寧	地誌学	日本地誌の研究
何 芳 子	人文地理学	工業立地論—工業地域の再開発

## § 教官の学内役職

渡辺先生 地理学科主任, 4年生補導委員, 紀要編集委員  
 松井先生 3年生補導委員, 図書館運営委員, 図書選定委員  
 浅井先生 1年生補導委員, 学生委員  
 浅海先生 1年生補導委員, 建物委員  
 式 先生 4年生補導委員, 臨海学習施設準備委員, 一般教育委員  
 正井先生 2年生補導委員

教務補佐員の増員。従来は副手に担当する役職であって、今年度から各講座毎にそれぞれつ  
 くことになった。配置は以下の通りである。

和田とく子(女高師昭24卒) 自然地理学および図書整理  
 小林 慈信(法政大学修士1年) 自然地理学  
 山崎 民子(本学昭42卒) 人文地理学  
 馬場由美子(本学修士昭43卒) 地誌学および空中写真整理  
 林原 陽子(本学修士昭43卒) 地誌学

## ● 学会関係

4月6～9日, 1968年度日本地理学会が開催された。6・7日は法政大学62年館において  
 地形・陸水・気候49, 土地利用・都市・農業・経済・地図等40の研究発表が行われ, 岩下茂子  
 氏(第12回生)が「縦断面形からみた扇状地の地下水と地形との関係」を発表した。続く8・9  
 日のエクスカージョンは, 相模野・大磯丘陵地域の第四紀テフラと地形発達, 横浜地域における経  
 済社会の変貌と地域計画, 南房総の農漁業, の3班に分けて行われた。

秋季大会は, 10月5～9日, 鳥取大学において開催され, 「海岸砂丘—その自然と開発」と  
 「後進地域の地域開発」の2つのシンポジウム(7日)と, それらに関係した巡検((1)大山・米子

・出雲方面、(2)大山・岡山県北部地方)が行われる予定で一般の研究発表は行われない。

九学会連合大会は6月1～2日、東大理学部2号館講堂において開催され、41年度から続けられている共同調査“利根川”について研究発表及び共同討議が行われた。

I. G. U. 第21回国際地理学会議、第12回総会が11月～12月にニューデリーを中心としてインド各地で開催される。本学からは渡辺光教授、式正英・正井泰夫両助教授が参加の予定。

### ◎ 同窓会 関係

1967年11月19日(日)、松井勇先生還暦祝賀会が桜蔭会館において、先生御夫妻を中心に飯本信之、赤木健、多田文男、保柳睦美、木内信蔵、籠瀬良明、吉崎恵次、吉川虎雄、戸谷洋、大和田順子、原高則の諸先生及び本学地理教室の各先生方と貝山さん、女高師時代松井先生にお教え頂いた昭和23～26年卒生14名、同窓生(1～15回生)42名、合計72名の出席のもとに盛大に行われた。それに先だち、記念品代として募られていた寄附金は10万円を越し、松井先生には銀製のコーヒーセット、ティースプーン・ケーキフォークセットの記念品が、夫人にはリヴィングウェア、ショールが祝賀会の席上で贈られた。尚、例年行っている地理学科同窓会を兼ねたので、祝賀会開始前に前回(第6回)の同窓会及び41年度の会計報告が行われた。

1968年6月2日(日)、第6回生の卒業10周年記念クラス会が恩師を招待して浅草のトンカツ屋モモタロウで開かれた。出席者は飯本先生、松井先生、卒業生9名。10年経ち、環境の変化はあってもそれぞれの人間は学生時代と余り変わらず、中共の文化革命、アメリカの人種問題の話などの体験談も入り、皆で楽しいひとときを過ごした。

---

## 渡辺教授退官記念会予告

---

渡辺光教授は来々年昭和45年3月で停年御退官にられる。これを機会に、学内はもとより広く地理学界に貢献されている先生の御功績にお報いする為に、微力ながら記念事業を計画することにした。本年7月からその準備のために学内に準備委員会を設け、8月末には内外の関係者計38名による実行委員会を発足させた。更に渡辺教授の弟子・知人・関係者など広い範囲に賛同を得たいと考えている。

内容は、1.記念パーティー 昭和45年4月開催(日どり未定) 2.記念品贈呈 3.記念出版物の刊行の3件を予定している。お茶の水地理11号(次号)は卒業生諸姉の献呈論文を中心にした特輯号になるであろう。この事業を通じて学内的には渡辺教授の念願であられる教室の縦の軀帯の強化に役立つより学外的には地理学界に裨益するようないい仕事になることを願望する。

(式正英記)